

服がぬげなくなった
“ぼく”
アレコレ考え
出した答えは
「ぬがなきゃ
いいんだ！」

もうぬげない

©Shinsuke Yoshitake

原作／ヨシタケシンスケ（ブロンズ新社刊）
脚色・演出／西本勝毅 人形美術／伊賀昌美
装置／阿部銀子 音楽・効果／松本雅隆（ロバの音楽座）

「ぬげなくても…」 脚色・演出 西本勝毅

小さな子どもたちが服を着たり脱いだりするとき、頭にひっかかってしまうことはよくあることだ。これは万国共通の“あるある”で、世界中の子どもたちが服を着たり脱いだりすると頭にひっかかる。そんな日常の一コマが絵本になり、人形劇となった。

主人公の“ぼく”は、服がひっかかり困り果て、空想するうちに「ふくが ぬげないんだったら ぬがなきゃいいんだ！」と思えるようになった。「ぼくみたいな こは ほかにも いるかもしれないよ」と、更に想像の世界をひろげてゆく。“ぼく”のように、気持ちが落ち込んでも、柔軟な発想でポジティブに考えるエネルギーは、子どもだけでなく大人をも励ましてくれる。

コロナ禍以降、人と人との直接のつながり以上にSNSが普及した。その画面上にはフェイクニュースや、殺伐とした心ない言葉が並ぶ。できないことはバカにされ、大勢と違う考えや疑問は、既成概念や同調圧力という大きな壁に阻まれる。それらを目の当たりにして、心が痛む。

しかし「ぬげなくても…」と発想を変えてみると、途端に目の前の世界は無限にひろがる。さまざまな人の存在と考えを知り、認め合うことができるだろう。

どうぞ、“ぼく”の自由な発想やコミカルな動きを心から楽しんでください。

同時上演



開幕劇 人形たちの「メヌエット」

作・演出／西本勝毅 美術／佐久間弥生
音響効果・照明プラン／川名 武

かろやかなメヌエットにのせて、いろいろな動物たちが登場します。音楽と動きで紡ぎ出す、ワクワクのつまったボードヴィルです。